

## 地図に親しみ、力をつけよう

# 地図にかかわる体験を豊かにする学習と 地図を活用する歴史の学習

東京学芸大学教授 大澤 克美

昨今、急速に普及してきた自動車や携帯電話などのナビゲーションには目をみはるものがあります。普及の背景に情報通信技術の発達等があったのは当然ですが、地図が使えない人々の強いニーズもあったのではないのでしょうか。確かに目的の場所に安全に行くことだけを考えれば、ナビゲーションへの完全な依存を必ずしも問題視すべきではありません。

しかし、地図が学習や生活、仕事にとって情報の宝庫であることを考えると、やはり地図に抵抗感をもたず、地図を好きになって、より積極的に活用する人が増えてほしいものです。そのためには、子どもたちと先生方がともに地図に関する体験をより多様で豊かにすることが必要でしょう。

### 1 方位を見つけ、活用する体験活動

身近な地域を取り上げる3年生では、学校周辺や市区町村の地図を読んだり、描いたりする学習の過程で四方位を扱うこととなります。教科書や副読本には、方位磁針や方位記号を使って屋上や丘の上から東西南北の景色を眺め、その後地図上で方位を確認するといった活動が例示されていますが、それで子どもたちみんなが方位を利用できるようになるのでしょうか。教科書や副読本では、方位関連の記述は少なくとも地域学習の過程で繰り返し使う体験を前提に、地図や現場で方位を活用できるようになることを想定しているのです。そのため、記述の有無に関係なく適切な場面

で継続的に体験させることが必要です。

また、3年生の理科には、「磁石の性質」に関する内容があるので、これと関連させて方位磁針を使う体験をさせることも考えられます。例えば、方位記号が欠落した地図を再生する活動を行うとしたら、方位磁針を使って現在地における北を確認した後、北を向いて目標物を定め、地図上の現在地と目標物を結んだ直線を磁針の方位に重ね合わせて方位記号を記します。むろん目標物が南・東・西にあっても、地図の方位を知ることが可能です。宝探しに出かけるために破れた地図を再生するというようなストーリーに位置づけ、子どもたちが楽しみながら活動できるようにしてはどうでしょうか。

地図の方位記号がずれている場合はなぜずれたのか、あるいは個々に記したのにどうして皆の方位が一致したのかについて話し合うのも重要な体験です。方位の利便性を教えてもらうだけでなく、磁石を使って自ら方位を見つける、方位と地図に関する多様な体験を積み重ねることが、地図の方位を使いこなす基盤を子どもたちにつちかうことでしょう。

### 2 等高線についての体験活動

等高線についても教科書などにていねいな説明と図解がありますが、やはり現実の坂を見て、その勾配を実感することが重要です。等高線の間隔が狭い坂と広い坂をそれぞれ歩いてみたり、自転車で上り下りしたりするこ

とで、教科書等の説明を理解し、等高線から地形をイメージする構えが子どもにつちかわれます。坂についての体験は、日常生活や生活科で十分と思われるかもしれませんが、都市部の生活では勾配への意識が意外に乏しく、生活科ではものの位置や表現に追われて、実際のところ坂についての体験が不十分な場合も少なくありません。

地図への理性的な理解を深めるには、感覚による感性的な理解が必要です。ところが感性的な理解を生む体験が不十分であるために、地図は苦手という子どもが減らないのではないのでしょうか。地理が得意・地図が好きという先生方には、自らを基準に考えることなく、地図に抵抗を感じる子どもや地図を読む前提となる体験が不足している子どもが多くいる現実を前提とし、感覚的で実感的な理解をうながす体験活動を一層重視してほしいと思います。

3

### 歴史授業で地図を活用する体験活動

地図は地理的な学習で使うものといった思い込みはないでしょうか。本来地図は、さまざまな調査や多様な事実の理解に役立つツールです。歴史でいえば、できごとが列挙された年表からその時代を総括的にとらえることが難くても、地図ならその時代の動きをビジュアルにとらえ、イメージ化しやすい場合があります。歴史的な事象が立て続けに起こり、空間的にも大きな動きのあった江戸から明治への転換期などは、地図化するとわかりやすい事例の一つです。例えば、薩英戦争から函館五稜郭の戦いまでのできごとを順次地図上にマークし、その動きを大きな矢印で示した上で、王政復古の号令や五箇条の誓文はどの時点で出されたのか、なぜ西から東へとい

う動きになったのかを地図を見ながら説明してみるのは、もし歴史が苦手であっても、地図の活用により複雑な時代の動きが理解しやすくなるでしょう。

また、子どもたちに歴史学習の過程で出てきたおもな事物や事象を白地図にマークさせていくのも大事な活動です。事物や事象を書いた付箋紙を、その場所に貼っていくのですが、縄文・弥生、古墳～平安、鎌倉～安土・桃山、江戸、明治～太平洋戦争、戦後以降で色分けしておくとも地図が読み取りやすくなります。各時代の付箋紙の分布はどのようになっているか、時代に伴い付箋紙の分布がいかに変わっていくか、自地域の遺物・伝統行事はどの時代に位置づけられるか等々を適時考えさせます。海外への広がりも含め自作の歴史地図から多くの気づきを引き出すことができるはずです。

歴史的な事物・事象を地図に記して俯瞰し、関連や変容を追究する体験は、歴史的な見方・考え方を育む上でも重要です。

